

“Kidney Week 2011”

～American Society of Nephrology 学会報告～

腎臓発生分野 博士課程3年
太口敦博 Atsuhiko Taguchi

11月10日から4日間、アメリカはフィラデルフィアで開かれたアメリカ腎臓学会の年会、“Kidney Week”に参加してきました。この学会はいわゆる「腎臓病学」に関する最も大きな学術集会で、世界各国から腎臓に関連した研究をしている人々が集まっています。日本では腎臓内科医は内科の中でもマイノリティーであるため、その規模の大きさに驚かされました。テーマも急性・慢性腎不全、腎炎、腎線維化など病理病態に関するものから、骨・ミネラル代謝、移植、透析に至るまで多岐にわたり、各領域のトレンドを垣間見ることができました。一方で、幹細胞学や再生医学に関する演題の出展は少な

く、腎臓領域でこれらの分野は、まだまだ「日進月歩」とは言い難い状況であることも示していました。

フィラデルフィアまでは、成田、ダラスと乗り継いで、片道約26時間のハードな道のりではありましたが、同じ領域で競う世界の研究者たちとじかに話をしたり、普段触れることの少ない臨床医の視点からの研究にも触れることができ、充実した時間を過ごせたように思います。

最後に、旅費支援をいただいたグローバルCOEプログラムに感謝し、この稿を締めさせていただきます。



(上)学会会場にて(中央:西中村教授、右:ボストクの神田さんと)
(左)有名な市庁舎ビル
(下)フィラデルフィアの街並み



USA国際学会レポート

遺伝子機能応用学分野 修士課程2年
福田亮介 Ryosuke Fukuda

12月1日から7日にかけて、ジョージア州立大学で行われたJian-Dong Li教授のラボとの共同シンポジウムと、デンバーで開催された「アメリカ細胞生物学会 (ASCB)」に、甲斐研究室から数名がグローバルCOEメンバーとして参加しました。

Jian-Dong教授はジョージア州立大学「Center for Inflammation, Immunity & Infection」の所長でもあり、本研究室の甲斐教授と旧知の間柄で、現在も甲斐研から2名のポスドク、1名の学生がJian-Dongラボへ留学しています。シンポジウムでは向こうのラボの研究員、本研究室の学生(博士課程から学部生まで)が互いの研究について英

語で熱い議論を交わし、とても刺激になりました。

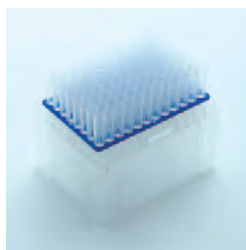
「ASCB」は世界最大規模の学会です。今年は標高1マイルに位置する都市、デンバーで開催されました。顕微鏡技術の進歩によってか、細胞骨格や細胞内オルガネラなどの“動き”に着目した発表が多い印象でした。酵母から細菌、ハエ、ゼブラフィッシュ、哺乳類と幅広い分野の最先端を走る研究者とじかに話すことができ、知識の幅を広げるだけでなく自分の研究を新たな視野から見つめ直す良いチャンスになりました。

旅費支援を賜りましたグローバルCOEには、この場を借りて御礼申し上げます。



(上)ASCB ポスター会場にて
(中)共同シンポジウムで白熱する議論
(左)学会参加メンバーinデンバー

COVER&ISSUE



表紙植物：リンドウ *Gentiana scabra* var. *buergeri* / 花言葉：誠実・正義
表紙機器：ピペットチップ

発行：熊本大学 グローバル COE プログラム 細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット

〒860-0811 熊本市本荘 2-2-1 Tel.096-373-5006 Fax.096-373-5031

<http://www.g-coe.org/>

編集制作：株式会社カラースプランニング